

## 企画パネル（1）趣旨

日本語教育における対話教育の重要性—プロフィシエンシーとコーパス分析の視点から—

鎌田 修（南山大学）

これまで日本語教育においてコミュニケーション能力の涵養がいかに重要であるかについてさまざまな形で語られてきた。しかし、手あかに染まったかに思える「対話」という言葉は「会話」と同義語のように使われ、その教育の重要性は未だ十分に理解されていない。また、コミュニケーション能力の育成に欠かせない自然な会話データの分析にとって、質的分析と同時にコンピュータによる、大量のデータ、つまり、コーパスの分析が喫緊の課題となっていることも事実である。

このような状況を鑑み、「言語を使って、いま、ここで、何が、どのように、そして、どれほど、産出、あるいは理解できるのか」というプロフィシエンシーの視点にコーパス分析の必要性を加え、多面的・多角的に対話教育について論じたい。プロフィシエンシーはコミュニケーション能力にレベル差を想定し、それを縦軸（上昇）志向において捉えるものであり、今後のコミュニケーション教育に重要な示唆を与える。ここでは、言語学ならびにコーパス分析から考える対話、地域定住外国人に求められる対話、日本語教育現場での対話教育、さらには演劇教育に立脚した対話教育という多様な切り口で本課題に取り組む。さらに、フロアとのやり取りに十分な時間を割き、今後の日本語教育の国際的発展に寄与できるパネルセッションにしたい。4人のパネリストの発表要旨は以下のとおりである。

### 第一発表「ウチ向きの『会話』能力からソト向きの『対話』能力へ」

牧野成一（プリンストン大学）

中島義道と平田オリザは日本のコミュニケーションのあり方は親しい者同士のウチ向きの「会話」が中心で、異なる価値観、異なる文化を持つ者同士がその違いをすり合わせるソト向きの「対話」が希薄だという。考えの落差を認めお互いが理解するまで話し合うときに「対話」が成立する。本発表では、まず、「会話」を「省略」と、「対話」を「繰り返し」と、それぞれ連携して考え、「省略」と「繰り返し」の言語機能を平田の『東京ノート』を使って分析し、話す伝達能力は「会話」から「対話」への流れで伸び、その頂点に知的コミュニケーション能力が出てくることを指摘する。

### 第二発表「日本における地域定住外国人に必要とされる『対話力』の実現」

野山 広（国立国語研究所）

共生社会の構築を目指して、地域に定住する外国人に必要とされる『対話力』について考える場合、二つの日本語（共通語と方言）及び母語（第一言語）という、複言語・複文化的側面から、対話の在り方を再考する必要がある。換言すれば、お互いの思いを伝え、分かり合うことを最大目標とする対話を目指すのであれば、外国人側の発話の特徴（化石化した音声、頻繁なコードスイッチ、馴れ馴れしいスタイルシフト等）を、主に日本語母語話者側の立場からだけ評価してきたことは不適切と考えられる。

本発表では、主に分散地域での縦断調査の結果を踏まえながら、グローバル時代の対話の在り方について展望する。

### 第三発表「日本語教育現場における『対話力』アップに向けた教育実践」

嶋田和子（アクラス日本語教育研究所）

多様な国・地域からの学習者が学ぶ日本語学校は、教室そのものが様々な価値観を共有する「対話の場」である。しかし、実際には現場において対話教育の意義は十分に認識されていない。人と人をつなぎ、社会的関係性の構築を目指す「対話」には、他者にいかに自分の考えを伝えるか、他者の話にいかに耳を傾け話を引き出すかといった能力が必要である。そのためには、プロフィシェンシーの考え方を基にした教育実践が求められる。本発表では、現場での教育実践例をもとに、具体的に対話教育のあり方について述べる。

### 第四発表「演劇教育による『対話力』育成とその実現」

平田オリザ（大阪大学）

対話型教育の重要性は長らく指摘されてきたが、有効な教材や教授法が確立されていないことも事実である。演劇は、もともと「他者」の存在を前提とし、対話によって成り立つ表現であり、そこには対話型教育に生かせる様々な要素が眠っている。本発表では、これまでの日本国内の日本語教育、国語教育、海外での演劇を使った教育事例、教材作りなどを幅広く紹介し、その可能性と課題を検討する。

### 参考文献

- 朝日新聞「インタビュー平田オリザ：価値観すり合せ第三の道を開く対話の言葉を磨こう」（2012. 7. 5 全国版朝刊）
- 鎌田修、嶋田和子共編著（2012）『対話とプロフィシェンシー：コミュニケーション能力の広がりと高まりをめざして』凡人社
- 鎌田修、嶋田和子、迫田久美子共編著（2008）『プロフィシェンシーを育てる一真の日本語能力を求めて一』凡人社
- 鎌田修、山内博之、堤良一共編著（2009）『プロフィシェンシーと日本語教育』ひつじ書房
- 嶋田和子監修（2011）『できる日本語-初級-』アルク
- 嶋田和子監修（2012）『できる日本語-初中級-』アルク
- 野呂博子、平田オリザ、川口義一、橋本慎吾（編）（2012）『ドラマチック日本語コミュニケーション』ココ出版
- 平田オリザ（2001）『対話のレッスン』小学館
- 牧野成一（1980）『くりかえしの文法』大修館書店
- 牧野成一（1996）『ウチとソトの言語文化学 -文法を文化で切る』アルク。